

# サツマイモ



## 育苗

床土 10m<sup>2</sup>  
(イモ10アール分)

- 畑土(山土) 1000ℓ
- 堆厩肥 1000ℓ
- 硫安 1kg

- 畑の大将<青> 1kg
  - ラクトバチルス 100kg
- ※根っ酵素液、花咲くCa液で調整する。

(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
本圃の地力作り	なるべく早く (植付けまでに20日以上おく事)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ラクトバチルス600g →保水性と通気性がよく、連作の効く地力を作る。</li> <li>●堆厩肥500kg</li> <li>●硫安20kg ※もし通常の複合肥料なら、チッソ成分4kg程度。</li> <li>●畑の大将&lt;青&gt; 40kg ※特に堆肥不足の場合は、硫酸カリ 20kg (~40kg) 追加。 ※砂地の場合は、硫安40kgとし、施すなら 硫酸カリも40kg。 ※ラクト・バチルスにより植付け時の土壌EC:0.2以下となる。</li> </ul>
整地時	整地前に全面散布 (または地力作り時に同時投入)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●畑の大将&lt;青&gt; 40kg (~60kg) ※上記の地力作り時に施してある場合は不要。 ※土壌pH:6.2を標準とし、高pHなら畑の大将&lt;赤&gt;。</li> <li>●マンゾク粒状 50kg (線虫・立枯病など土壌病害が心配な畑に。) →根を強く働かせて、生長を促進する。</li> </ul>
定植後	定植後の灌水に	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素500倍液を灌水 →強い根が出て 4日以内に活着。イモの分化。</li> </ul>
前期	定植後1ヵ月間	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素液 1~2ℓ (300倍前後)を灌水時に加える。 ※生長が弱いのは、ほとんど根の障害なので、根っ酵素を。 ※チッソが効き過ぎると、ツルの徒長、ゴボウ根や皮脈が多くなる。 ECを測定し、本当に肥料不足かどうか調べる事。 ※チッソが効いてツルが伸びるようなら、花咲くCa液500倍の葉面散布。</li> </ul>
後期	1ヵ月後以降	<ul style="list-style-type: none"> <li>●花咲くCa液500倍で葉面散布 →デンプンの転流、イモの肥大・充実促進 ※後半期にツルボケや、ツル先が元気に立上っている場合は、2回。 (特に紅赤、ベニアズマは注意) ※チッソの効きすぎ、過繁茂が顕著な場合は、畑の大将&lt;青&gt; 10~20kgを施用する。 ※早魃でシオレが目立つ場合は、根っ酵素液1500倍ほどで、軽く灌水する。(8月半ばまで。特に高系、ベニコマチは注意) ※普通、追肥は不要。砂地などで本当にチッソ不足の時だけ、硫安10kgを施す。ただし、収穫期に近い場合は施さない事。</li> </ul>